



夢に生きたん

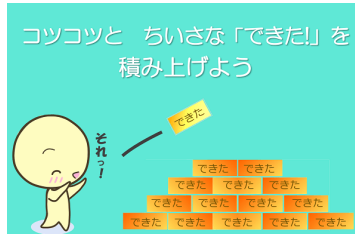
Takeokadai High School
進路指導部 第 2 号
発行日 R2. 5. 14 (木)

「今できることをコツコツと」～意識を変えよう～

かわいい響きとは裏腹に、世界中を不安と恐怖の渦に巻き込んでいるコロナウィルス。当たり前で過ごしていた日常がなつかしく感じられる長期休校。みなさんはどのようなことを考え、どのように過ごしていましたか。「努力する人は希望を語り、怠ける人は不満を語る」というのは、小説家の井上靖さんの言葉です。未知のウィルスと戦い、未来への希望に思いを馳せる時間を過ごしたいものです。

入試改革後の共通テストや大学の個別試験では、与えられた問いに対して、その概念を理解した上で自分の考えを整理して表現することがこれまで以上に求められます。単に知識を詰め込むだけでなく、積極的に知識を活用する学習方法を確立してほしいです。

さて、各教科から与えられた課題は継続的に取り組むことができたでしょうか。「小さなことを重ねることが、とんでもないところに行くただひとつの道」と有言実行したイチロー（元メジャーリーガー）に学び、今できることを積み重ねていきたいですね。それが未来の自分の礎になります。



「総合型選抜、学校推薦型選抜とは？」

～「+ α 」を評価してもらえるチャンス！

皆さんは、共通テストや国公立大学個別試験を乗り越えるための学力をつけられるよう、日々の授業や学習に取り組んでいかなければなりません。「大学全入時代」と言われることもあります。武台生の大半が目指す国公立大学においては相変わらず倍率は高いと言わざるを得ません。

大学入試には、「一発勝負」である一般選抜とは別に、「総合型選抜」と「学校推薦型選抜」があります。受験資格・条件は各大学によって異なりますが、大まかに言えば、「学力+ α 」を評価してもらえる受験です。国公立大学の「総合型選抜」と「学校推薦型選抜」、二つの入試システムついて簡単に示します。

	総合型選抜	学校推薦型選抜
評価内容	各大学の「アドミッション・ポリシー（求める学生像）」に適しているか。特色があるか。	学習状況や課外活動など日頃の努力と学力を総合的に評価する。
求められるもの	学力だけでなく、「その大学で学びたい」という受験生の意欲や熱意。高校での実績。	評定平均値に基準があることが多い。（＝学力が要求される）
学校長の推薦	原則不要。	必要。（校内の推薦委員会で審議）
選抜方法	志望理由書・調査書・活動報告書・小論文・面接が多いが大学によって様々である。	書類審査（推薦書・志望理由書・調査書・活動報告書）・小論文・面接・口頭試問が主体。
出願時期	9月～10月でかなり早く、試験実施日が異なる。国公立大学では共通テストで課す大学が多い。	11月～。共通テストを課す場合があり、その場合、個別試験は2月に実施される。
その他	総合型選抜に不合格のとき、場合によっては学校推薦型選抜に挑戦することもできる。	国公立大学の学校推薦型選抜は <u>一回しか受験できない</u> 。

※総合型選抜、学校推薦型選抜の内容は、国公立大学か私立大学かによっても異なってきます。

「評定平均値?」「+αって?」～早いうちから知っておきたい入試の知識

〔評定平均値とは?〕

「評定」とは、定期考査の結果や授業態度、課題の提出状況などをもとに総合的に評価したもので、通知表に載っている「5・4・3・2・1」のことです。

1年次から3年次のすべての科目の評定の合計数をすべての科目数で割って、小数点以下第2位を四捨五入して求めた数値が3年間の「評定平均値」となります。3年生の場合は1学期末に出される仮評定が使用され、出願時に提出する「調査書」に記載されます。この調査書は一般選抜を含む、すべての受験で必要な書類です。

A	5.0 ~ 4.3
B	4.2 ~ 3.5
C	3.4 ~ 2.7
D	2.6 ~ 1.9
E	1.8 ~

また、評定平均値は左記のように A~E の5段階で成績概評として示されます。総合型選抜や学校推薦型選抜の出願条件として、成績概評 A 以上を求める大学も少なくありません。学校長が特に優れていると認めた場合は◎をつけることができますが、その◎を条件とする大学もあります。

評定は前述の通り、定期考査の結果や授業・課題の取り組み状況がもとになります。言わば「毎日の積み重ね」の証です。気を抜いてもよいテスト、適当にやってもよい課題なんて一つもないんだということを心に留めて、毎日の学習に励み、1回1回の考査を大事にしましょう。今年はコロナウィルスの影響で中間考査が中止になりました。それだけ期末考査の重要度が増すということです。今のうちからコツコツと勉強し、期末考査前にあわてることのないようにしたいものです。

〔「+α」って何だろう?〕

総合型選抜や学校推薦型選抜では、受験生の学力だけでなく、それ以外の部分(+α)を評価し、合否の判断材料としています。その時に重視されるのが先にも述べた「調査書」です。調査書には、その生徒がどういう学校生活を送ってきたかが分かるよう、成績以外にも出欠状況、特別活動の記録などが細かく記載されます。部活動や生徒会活動、検定の取得など、様々なことに取り組みれば取り組むほど、記載内容は増えることになります。逆に、特に何も取り組んでいなければ、調査書に何も書き込まず、空欄のままとなります。総合型選抜や学校推薦型選抜では、調査書の内容をそのまま点数化したり、面接時の参考資料としたりするので、調査書の記載が豊富な受験生ほど有利になるというわけです。また、今年度の入試から一般選抜でも活動報告書を提出させ、点数化し、合否判定に活用する大学が増えることが予想されます。

学力以外として、以下のようなことが挙げられます。

- 部活動での実績
- 生徒会活動（執行委員、専門委員会など）
- 校外のコンクール・コンテスト等の入賞実績
- 継続的なボランティア活動、自発的なボランティア活動
- 総合的な学習（探求）の時間などで取り組んだ課題研究やそのレポート
- 高校時代に取得した検定・資格（英検や漢検、全商検定など）
- インターンシップや国際交流などの諸活動

調査書は、後からの書き換えなどはできません。低学年のうちから充実した高校生活を送ることが、そのまま調査書の充実に繋がるのです。そのためにも、レポート・感想文・賞状・証明書などはポートフォリオ用のクリアファイルを利用したり、1・2年生はeポートフォリオを入力したりしてきちんと保管・記録しておきましょう。また、手帳を積極的に利用して、活動を記録しておくことも調査書・活動報告書を充実させるためには大事なことです。

ただし、コロナウィルスの影響で、全国に緊急事態が発令され、多くの学校が休校、高校総体予選の実施が危ぶまれるなど諸活動を充実させられない状況下にあります。文科省でもこの状況に鑑み、対応を検討しているようです。1・2年生はコロナの収束を待ち、全国の活動が再開されたら様々な取り組みにチャレンジしよう。3年生は今後の文科省・高体連からの情報を注視しておきましょう。